

回遊美術館Ⅱ 北浦和西口銀座商店街アート化計画

身近な場所でアートの新たな楽しみ方を提案しよう。人と人をつなぐアートの不思議な力を実感しよう。そう考えてSMFでは、公園や商店街、鋳物工場など、さまざまな場でアートプログラムを展開してきました。



「ふれあい通り」の名称で親しまれている北浦和西口銀座商店街でのアートプログラムも「竹のサウンドオブジェを探して楽しいアート散歩」(2008年)、「回遊美術館」(2009年)に続いて3回目となります。

今回は「回遊美術館Ⅱ-北浦和西口銀座商店街アート化計画」と題して、5組のアーティストたちと埼玉大学の学生有志が、のんびり歩いてどこか懐かしい風情をのこしたこの商店街と向き合い、さまざまなアートを通して感性と創造力に働きかけて、笑顔と会話が弾む楽しい場づくりに挑戦します。



うわさバッジや写真を活用した《北浦和出逢い景》プロジェクトや、野菜や果物とサウンドオブジェの競演となる《八百屋にモビール》、幸せを招く

七つの光の座を訪ね歩く《居場所》、ひもの人がたづねてさまざまな人をつなぐ《HIMONINGEN》プロジェクト、遊牧民のテントを模したゲルを拠点に3台の自力更生車で展開される《東西見聞シェルター計画》まで、コミュニケーションに主眼を置いた多彩な作品がまちを彩ります。

商店街にもぜひ足を運んでいただき、美術館の展覧会や北浦和公園の彫刻、音楽噴水とともに、北浦和のまちや人々との出逢いをどうぞお楽しみください。

「回遊美術館Ⅱ」への参加に当たって

石上城行(埼玉大学教育学部准教授)

北浦和西口銀座商店街は、埼玉大学の学生が通学に使う埼玉大通りと併走する商店街ということで、学生たちにとってもとてもなじみ深い日常空間です。そこを舞台に5組のアーティストが新たなアート楽しみ方を提案する今回の試みは、美術科教員を目指す学生にとって大きな刺激となることは間違いないでしょう。アートが持つ「つなぐ力」や「突破力」を目撃することで、そこに集う人々の心に化学変化が起こることを期待しています。



平成23年度 文化庁 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
(ミュージアム活性化支援事業)

Saitama Art Platform形成準備事業 回遊美術館Ⅱ

会期:2011年12月3日(土)~11日(日) 10:00~17:00

会場:北浦和西口銀座商店街、埼玉県立近代美術館、ほか

作品により展示期間や鑑賞可能な時間が一部異なります。
店舗定休日や休館日には店内や館内展示の作品はご覧になれません。

主催:Saitama Art Platform形成準備事業実行委員会

<http://www.artplatform.jp>

協力:北浦和西口銀座商店街(Lecoeur、布袋屋、小松屋、Wardrobe、昭和薬局、サイトウ薬局、横内酒店、ファインズ、ゴールドフォンテン、川口信用金庫北浦和支店、みのりや、グリーンマートHANO、若松湯、ふじや、中華楼、肉のおおき、他多数)、グランスイート浦和常盤、埼玉県ときわ職員住宅、JR北浦和駅

問合せ:Tel.048-824-0110(埼玉県立近代美術館内 Saitama Art Platform 形成準備事業実行委員会事務局)

回遊美術館Ⅱ

北浦和西口銀座商店街
アート化計画

2011年12月3日(土)~11日(日)

10:00~17:00

北浦和西口銀座商店街、埼玉県立近代美術館



文化庁 平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業(ミュージアム活性化支援事業)



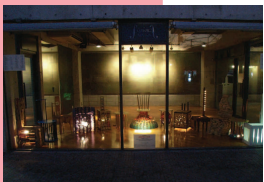
田中清隆 TANAKA Kiyotaka

LIGHT WORKS「居場所」=スワルカタチから 七福座+α 2001-2011年
北浦和西口銀座商店街(Lecoeur, Wardrobe, 昭和薬局、横内酒店、ゴールドフォンテン、みのりや、ふじや)、埼玉県立近代美術館エントランス

「居場所」Projectは、主に木質素材で「スワルカタチ」=イスのカタチを再生し、「光」を仕込んで、「ひと」の「気配」を感じてもらうことを意味します。そこに誰かが「居た」または、「居る」を意識しています。そして、制作した「スワルカタチ」をさまざまな場所に運び、存在させ記録することを連鎖、展開しています。今回は、七つの「居場所」=七福座…スワルカタチを巡る小散歩+α。「居場所」の意味を再認識できることを期待しています。



1959年 東京生まれ。1984年多摩美術大学大学院修了 1986年「光」を素材とした立体造形作品を制作・発表開始 1998年第6回東京野外現代彫刻展展大賞(世田谷公園・世田谷美術館)など。



松本秋則 MATSUMOTO Akinori

八百屋にモビール 2009-2011年 竹、音 小松屋

サウンドオブジェを使用していろいろな物や場所とコラボレーションをしてきましたが、今回はたくさんの野菜達とコラボレーションをします、どんな関係が生まれるか楽しみです。



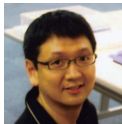
1951年 埼玉県生まれ。1992年五島記念文化賞 1999年バンガラデシュ・アジア・アート・ビエンナーレ大賞 美術館、公園、民家など様々な場所でサウンドインスタレーションを展開している。



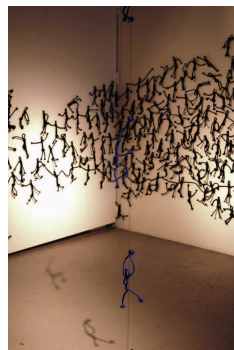
SYUTA(三友周太) MITOMO Shuta

HIMONINGEN Project 2011年 ヒモを使ったインスタレーション
若松湯入口左の空き店舗 及び 北浦和西口銀座商店街各協力店舗等

SMFを通して埼玉県内での文化活動に最初にかかわったのは2008年でした。それから毎年、今年で4回目の参加になります。今年は、ヒモを使って人型を製作しそれを展示して行きます。ヒモのもつ、結ぶ繋がるをテーマに参加者とともに製作をして行くのがコンセプトです。今回は商店街の中にヒモ型の人間を配置してゆきます。



1967年 米国ニューヨーク生まれ。Artist / Pharmacist (アーティスト / 薬剤師) 芸術と社会との係わり合いをテーマのひとつとして製作を行う。



山本耕一郎 YAMAMOTO Koichiro

北浦和出逢い景 2011年 写真ほか 北浦和西口銀座商店街各協力店舗

西口銀座商店街で期間中毎日、誰でも「噂のあのひと」になれるやう「うわさパッジ」を配布します。「1日中、身につけてくれるひと」「写真を撮らせてくれるひと」はなんと無料! あなたも今日1日、噂のひとになってみませんか?



1969年 名古屋生まれ。筑波大学卒。英国ロイヤルカレッジオブアート大学院修了。「アサヒアートフェスティバル」、「トヨタ子どもとアーティストの出会い」などに参加。筑波大学大学院非常勤講師。



社会芸術 / ユニット・ウルス

東西見聞シェルター計画 2011年

安部大雅、鈴木一、野口眞一郎、長谷川千賀子、三木祥子、吉川信雄、吉田富久一(代表:吉田富久一)

竹、ミラーシート、蓄音機、玄米、炭、塩、茶、多胡石、路上記録装置、他
ゲルを中心にして、自力更生車で動的に補完する
サイト薬局倉庫前、川口信用金庫北浦和支店前交差点、埼玉県ときわ職員住宅前ポケットパーク、他

埼玉大学学生の協力によるゲル組立ワークショップ(12/1)。蓄音機コンサート(12/4)を予定。ゲル内には炭入りクッションを置き、フェアトレードの茶を振舞い、多胡石についてまちの人々と語りあう。自力更生車で蓄音機を移動レコード鑑賞のほか、玄米おにぎり、焼塩、炭オブジェ等を販売。路上にて足跡記録絵画を展開。



安部大雅:イタリアで学び主に石の彫刻を作っていますが、本ユニットにおいては彫刻家の枠を越えた活動をおこなう。



三木祥子:環境アーティスト。環境に配慮した素材やフェアトレードのコーヒー豆袋を使用した作品 etc.



鈴木一:種子交配から自然農法をはじめ、近年養蜂へと展開中。発酵玄米のおにぎりを出展し、昨今の食料問題を考える。



吉川信雄:竹の都市展企画展(1993すみだリバーサイドホール・ギャラリー)。太田メディアアート2000日本側審査委員(韓国太田市美術館)など。



野口眞一郎:1952年大阪生。音楽制作40年。蓄音機歴60年。街角ちくおんぎ演奏20年。演劇、映画にも参加。



吉田富久一:2002年 社会芸術設立。回遊美術館では自力更生車計画(2009)、東西見聞シェルター計画(2011)を企画。



長谷川千賀子:多摩美術大学大学院修了二科会会員。今年は作曲DCと映像によるパッケージ制作。「松浜地区心意気ARTフェスタ」(新潟)に参加。



野口眞一郎さんとクラシックの名盤を聴く
懐かしの蓄音機コンサート

2011年12月4日(日) 15:00~16:15

埼玉県立近代美術館 講座室(3階) 入場無料 定員25名(当日先着順)

クリスマスを期したコンサート。埼玉に育まれた作曲家、下総統一、浦和にゆかりの広田龍太郎、諸井三郎・諸井誠 父子と、信時潔について語り、その作品やクラシックの名盤を楽しみます。